

第3回 桜井市総合計画審議会 議事要旨

令和元年8月29日(木) 10時00分～

場所：桜井市木材協同組合

1. 開会

○事務局

- ・これより、第2回桜井市総合計画審議会を開催させていただく。なお、委員の方19名のうち13名にご出席いただいているため、本会が成立していることをご報告させていただく。

○伊藤会長

- ・本日は快適で立派な会場を提供していただき、ありがとうございます。本日もよろしくお願ひ致します。

○事務局

- ・本日は当審議会の委員でもある岩本理事長のご厚意で会館をお貸しいただいている。せっかくですので簡単に説明をお願いしたい。

○岩本委員

- ・本日は当組合会館で桜井市の総合計画審議会を開催いただきありがとうございます。本組合のこの会館は昨年5月に、70周年を記念して、前の桜井の南都銀行横の会館から移転させていただいた。鉄筋コンクリートの建物で中の一部を板張りしていたが、材木屋らしくないため、いつか木造でと考えていた。あの会館は昭和45年建設で耐震基準を満たしておらず、組合員が270名いた頃のものなので4階建ての広い建物であったが、最近は組合員が100名を切るようになったため、70周年の記念でもあり、建て替えるすべはないかと考えた。この会館は、あるぼーるを先に移転したので、会館を純木造で建てたいということで組合員の力を借りて、天井は杉、梁はヒバ、大きな梁はハイブリットの集成材で強度を出し、柱や床板はヒノキを使用するなど、いろいろな木を使っている。木材は32名の組合員から提供いただいた。耐震強度も3に上げたため、桜井市と避難所設置に関する協定を締結した。この会館の床面積は156坪、245立米の木材を使用しており、一般住宅で言えば12棟分の材木の量になる。木に触れ、匂い、温もりを体験していただくことで木のPRとなるので需要拡大に繋がればと考えている。この2階の会議室はいろいろな会議に対応しているので、連絡をいただき、空いていればいつでも使っていただける。また1階の床部分も杉の圧縮材を使用していたり、木自身を熱圧処理している物などいろいろな木の使い方をしている。ゆっくりご覧いただければありがたい。

○事務局

- ・みなさまの前にあるお茶とコーヒーも木材協同組合さんのご厚意でご提供いただ

いた。御礼申し上げる。この後、会館の見学もさせていただけるのでぜひ見学もしていただきたい。では、本日の議事に移る。

2. 案件

(1) 第6次桜井市総合計画の構成案について事務局より説明を行った。

○和田委員

- ・この構成案は、いつ頃を目途にだいたいのフレームを作る目標なのか。私は、「はじめに」の2の「桜井市を取り巻く社会動向」、ここで、少しでもいいので人口減少について指摘する必要があると思う。そして人口フレームは基本構想の中で位置づけているが、このことについて、事務当局としてどのように記述をしていくか、大変気になっている。今日もしくは今後ということでも、ぜひ触れていただきたい。

○事務局

- ・今後のスケジュールについて一番最初の審議会でお配りした工程表から少々ずれが生じてはいるが、次回第4回目の審議会を10月もしくは11月の頭に開催し、その中で基本構想を審議していただく予定になっている。人口フレームについては、人口減少は桜井市だけではなく日本全国の傾向であるので、それをふまえた上で、これからの総合計画で位置づける施策を実現することによって人口減少のスピードを緩めていくという人口ビジョンをやっており、今後、審議会の中でみなさまに審議いただきたい。前回、藤井委員からも意見をいただいたが、2030年の人口を53,000人としており、再度ご説明させていただいた上で、その妥当性についても議論いただきたい。

○伊藤会長

- ・人口減少について、桜井市を取り巻く社会動向の中に入れるべきではないかというご意見があったが。

○事務局

- ・当然桜井市にもその傾向はあるので、まだ具体的なプランはないが触れていくべきだと思っている。

○事務局

- ・人口ビジョンについては、人口問題研究所などからいろいろなデータが出ており、もっと人口は減るという予測もある。今、まちづくりの関係で、地方創生やいろいろな施策をやる中で、できるだけ人口の減少を防ぐということで、2030年は53,000人ということでご理解をいただいた。先ほど事務局から説明したが、当初のスケジュールに基づき、若干作業は遅れ気味であるが順次進めている。本日資料の骨子の中には、若者の意見を聞くため高校生に入ってもらったワークショップの提案などもお示ししている。

○大園委員

- ・今回の総合計画の中で、「地域」、「地域住民」という言葉が出ているが、桜井市には通勤はもちろん、外国人の技能実習生も、来訪者や観光客も多くいる。例えば自治会の加入率は、30年7月の時点で24,668世帯のうち3,624世帯が未加入である。それらを踏まえて、総合計画自体はどれだけの人たちをカバーしようとしているのか。

○事務局

- ・これからの10年間は市民以外に市に関わりを持つ方は増えていく。当然交流人口を増やしていくということ、また就業の部分では、近隣のみなさまに桜井市に就業をしていただくということであればすなわち生活を共にするということでもあり、おっしゃるように、住民票を持つ方以外にも広くとらえた形で計画をまとめていきたい。

○伊藤会長

- ・いわゆる「関係人口」はカバーする。桜井市を取り巻く社会動向の中に第4次産業革命、SDGsを動向に盛り込んでいただきたい。

(2) 将来都市構造・将来都市像の検討状況について事務局より説明を行った。

○林委員

- ・説明を聞かせていただいたが、大変よくご検討されている。以前から私共が声を大にしてお願いしているJR桜井駅の高架化について、一言も触れられていないことが淋しい。JR線を高架化すれば中央の流通がよくなるので大阪方面や榛原方面の通勤の拠点になる。この機会に何とか高架化ということの名目としていていただきたい。先日、知事からJR桜井線を高架化するべきであり、市長にも訴えよと言われた。委員長も高架化にすべきだと言われていた。桜井市は南北が隔たっている。高架にしない限り人のつながりができないと、私はよそから来て一番感じている。なんとかJRの高架化を明文化してほしい。

○事務局

- ・過去から計画もあった中で実現していない。確かに知事も、そういう話もされたことを聞いているが、実際に桜井市が抱えている問題として、吉野線も全面開通に至っていない、白河バイパスもできていない等、いろいろな問題を抱えている。奈良市の高架化で600億円かかっている。現実的には、ここ10～20年でJR桜井駅の高架化が本当にできるかかなり疑問である。確かに知事にそういう構想を持っていただいているのはありがたいが、10年間の総合計画となるので、そこに単体で入れてしまうと、全体の総合計画の中では色合いが違うのではという思いがある。我々も承知しており、意見として承るが、これは最上位の計画となるので、そこはご理解いただきたい。

○岩本委員

- ・基本的に高架化は20～30年かかるとは理解しているが、南口から近鉄に乗れない

というのはおかしい。2 つあった改札を1つにされた時点でまちづくりとして間違っている。以前は両方から入れたのが1つにされたのに市が黙っている。まず、南口からそのまま近鉄に乗れるように、そのことから始めてもらわないと。個人的には、駅ビルにして両方から出入りできるようにするのが一番桜井市のためになったと思う。今後、そういうことも含めて、近鉄とよく話をしてほしい。また、古墳のモニュメントを将来的にどうするか。個人的には、バスの無料駐車場にするべきだと思う。今は観光バスを停めるところが一切ない。あまり無駄なことをせず、役に立つ物を整備するのがよい。

○林委員

- ・事務局からの説明があったが、頭の隅にあるということだけでもよい。今までほとんど議論がなかったので、よろしくお願ひしたい。

○伊藤会長

- ・具体的な物を計画として盛り込むのは難しいが、課題として位置づけることは可能。

○藤井委員

- ・今後目指していく中に人口の減少に歯止めをかけるという部分と、財政を確保しなければならないという点で、当初の予定の企業誘致も重要になってくる。その際、桜井市の計画をどういう形でPRするかという問題がある。最近是全国的に異常気象や災害が多いが、桜井市はこれまで大きな被害はあまりない。そこをPRすることで居住地域としての優先順位を高めてもらうこともできるのではないか。精巧な機械等々を作っている企業を誘致する場合も気象条件などは重要なポイントとなる。荒井知事も中和幹線の延伸も考えているとおっしゃっている。それに加え、団地における工業系の誘致も考えている。中和幹線の延伸と白河バイパスの計画ありきではあるが、そのあたりのこともふまえた将来像の描き方も含め、整合性をとりながら考えていただきたい。

○事務局

- ・確かに、荒井知事も、高架化の話と中和幹線の沿線である東部地域の活性化について強調されている。工業系の施設を中和幹線沿いにもってきたらどうかという発想があり、それによって就業の機会が増え、人口増につながるであろうという構想で話をいただいている。市としてもこの話については十分に検討していこうということで、イメージ図の中にある奈良～上之郷周辺を通る白河バイパスを総合計画に新たに入れていく。確かに、企業誘致をはからないと人口が下げ止まることはない。これまでは商業系ばかり（25%程度）誘致してきたが、工業系が一番長く続く。しかし桜井市の場合は、「発掘調査などの費用がかかる。」と敬遠されがちである。安倍の方の、NAFIC や木材団地があった場所に土地のバンク制度を活用しながら働きかけたい。

○伊藤会長

- ・生活者だけでなく、生産者にとっても安全である点をアピールするのは有効である。

○事務局

- ・災害が少ないという点は強調していただきたい。関東でリタイアされた方が終の棲家としてゆっくり自然にふれて人生の後半を送る…というような空き家バンク等も含めた対策も考えている。

○大園委員

- ・新産業を創出するときに、桜井市には平野部が少ない割に景観地域が非常に多く、どうしても企業立地に向かない条件になっている。条例の中でも本当にそこまで必要であるのか、特に利活用されていない耕作放棄地や、空き地・空き家を含め、今一度詳細を検討していただきたい。JR の高架化や南北の隔たりの話になるが、地域によって人口構成が非常にいびつになっている。それを抱えた上で、桜井市全体を見た時に、南部にも北部にもうまく行き渡るような政策を考えているということを訴えていくべきである。

○事務局

- ・桜井市は全国の縮図ともいえる。桜井市も限界集落のようなところが出てきている。一方で、どんどん住居が建ってきて、教室が足りない校区もあるため、政策を一律でかぶせていくのは無理がある。地域の特色と整合させないといけない。そのためには総合計画の中でゾーンをきっちり決め、重点的に施策をすすめないと財政的に持たない。交通対策でも全ての範囲を公共共通で賄うことはできない。

○伊藤会長

- ・人口フレームを考える際に、年齢3区分だけでなく、地区別人口も見て考えていただきたい。

○福本委員

- ・休耕地や手をつけていない山など、ほとんど手入れされていないと思われる地域がたくさん目につく。桜井市の場合は規制地域が多く、これから開発して農業を活性化するには、縦割り行政ではなく、特区にして、横のつながりを持った、生産者も流通も職につながる開発をしていくことが必要である。縦割りでは経営者が亡くなった時点で違うものになるなど継続性がないため、土地があってもなかなか手を出せない。特区を作りながら再生を目指すことがこれから不可欠ではないか。特区を設けて開発している地域がいくつかテレビで紹介されていたが、桜井市の場合は、歴史的風致の規制がきついこともあり、北の方はほとんど開発できない。特区にし、横のつながりで行政が手を組んで生産から人々の職・暮らしに結びつく開発をしていかないと、単独での再生は無理である。山を持っている人はお金にならないので放置し、持ち主不在の土地がいくつもできていく。桜井市もそう。今後どういう方向性をもって自然交流・森林再生ゾーンをやっている

くのか？

○事務局

- ・農業と林業の関係でゾーニングはさせていただいているが、具体の施策をどうするかという話は国レベルの課題ということで、国主導で森林を保全するための計画を作っている。森林の問題は環境問題であり、災害の問題もあるので、そのあたりを考えながら2~3年の間にきちっと作っていく。木材協同組合さんにもお願いし、利用促進も施策として考えている。農業関係では、いろいろな課題は考えているが、桜井市は幸いNAFICを県が整備してくれている。安倍地区で農業のまちづくりのための組織が立ち上がった。6次産業化、ブランド化、販売など、小さなやり方であるが火がつき始めている。笠そばを食べにいろんなところからお客さんが来られるし、吉隠米もある。そういうところをどんどん活性化してもらおう。地元の方を含めて、組織を組んで取組みを広げていきたい。ただ、農業は自然に左右されるし、イノシシなどの獣害もある。シカなどは対策が難しい。そういう戦いもある。そのあたりの対応ができるよう総合計画の中で課題として捉えていきたい。

○東委員

- ・現在、中山間地域において耕作放棄農地がたくさん出ている。農業をする人や地域の人が減っていく中でどういう風に総合計画に入れていくか。言われたようにイノシシやシカの獣害が多数出ている。そういった課題についてどのようにとらえていくか、ご検討いただきたい。

○伊藤会長

- ・農業振興において、耕作放棄地対策や新規就農については課題として捉えている。

○事務局

- ・今の新規就農は、NAFICの関係も含めて、農業従事者は一定の面積と資金を持って投資しなければ儲からない。米でも作ろうとすると農機などで1,000万円くらい、さらに倉庫などで5,000万円くらいかかるという話も聞く。農作物の付加価値を高めて売ればその部分では利益が上がるが、トータルでみるとどうか。放棄地については実際、農業委員会にも相談があり、紹介等はするものの、利便性の低いところは断られ、平坦で作業しやすいところに集中する。それを覚悟でやってくれる法人などを見つけていかないと、将来的には厳しい。

○和田委員

- ・中和幹線沿いの大福地域が、今一生懸命に企業を誘致している。そこが商業地域として開発されると、大きな商業圏になると思う。そういう意味では、ゾーンとしてどこが扱う対象になるのか。また、桜井市の将来像にも関わることだが、奈良県は「国の始まり奈良」というように歴史文化を売りに打ち出している。桜井市も、「奈良の中の桜井」、「国の始まり」という「文化都市」というのを打ち出すのであれば、観光資源として観光産業に関連する。将来像との関わりもあるので、

もっと観光を打ち出すことができないかどうか、検討したいと思う。

○伊藤会長

- ・将来像のキーワードとして「観光産業」があったので、各委員の方から、これはというキーワードを一言ずつ出していただきたい。

○中村委員

- ・総合計画の限界もある。様々な願望もあり、現実には毎日生活している者としては生活の実感として感じられるまちづくりが大事。何によって市民が納得し、全国各地に訴えられるか。「令和」は万葉集から命名されたが、その雄略天皇の時代から日本の始まりは桜井である。これは1つの大きなターニングポイント。貴重な歴史のふるさとが桜井市。万葉集の歌詞には桜井が非常に多く掲載されており、石碑があるのも桜井市だけ。しかし、東京に行っても桜井市は知られていない。石位寺所蔵の日本最古の石仏を東京で展示するが、そういった文化観光を総合計画の中に入れることは非常に大事である。総合計画の限界もあるが、「産業」、「観光」は大事である。6つの目標を掲げているが、もう少し観光に特化するべき。産業についても、桜井の東部開発で良質な工業団地を誘致しようということになった。なかなか行政も含めて腰が重かったが、やっと地域もその気になってくれて、上之郷あたりは工業団地の誘致を進めている。「産業」と「観光」があると明記していただければ全国にPRできる。

○東委員

- ・「歴史文化の発祥の都市」、「地域の支え合いふれあいのあるまち」が桜井市のウリになる。

○山本委員

- ・観光に特化してという話だが、桜井市の名物やおみやげとして何を持って行けばよいのか困る。やはり観光を打ち出すのであれば、いろんな選択肢のあるおみやげや、これが売りだという名物をもう少したくさん作っていただけたらありがたい。空き家対策でも、他県から桜井市に住んでもらいやすくするため、市が条例で決めて移住しやすくして欲しい。

○梅田委員

- ・全国で桜井市だけが持っている魅力を打ち出していくことによって、桜井市は継続的に発展していくことができると思う。桜井市だけが持っている歴史、それも、単に「歴史」という広い捉え方ではなく、飛鳥時代以前の古代史の歴史。黎明期、飛鳥時代に行くまでの大和王権、日本が日本になった、そして500年都があった、謎に包まれた古代史が体感できる歴史の町、というように「歴史」にもっと具体的な修飾語をつけることによって「観光立国」、「観光都市」になる。どんな歴史なのかをもっと打ち出さないといけな。桜井市の将来像に必要なのは、具体的な数値目標。今はこういう収入であるが、例えば「観光都市」としてやっていくのならいくら予算がとれる、そして10年後にはこうなっているというちゃんと

した具体的な数値目標が必要。あとは外貨をきちんと稼ぐ。観光でも、素通りしては市には何の収入にもならない。収入にならないから発展しない。JR の話も、便利であるはずの鉄道が市を分断していることを市が放置しているのはあり得ない話。先ほどちゃんと林会長が意見して下さって大変心強かった。確かにお金もかかるので難しいのはわかるが、やはり JR がお金を出してやってくれないといけない。10 年以内では難しいかもしれないが、市として「地域を分断している線路を高架化する」ということを絶対に盛り込んで市民にわかってもらわないといけない。桜井市の負のインフラといえば、駅前の古墳のモニュメント。古代史ファンの友人に、駅前に古墳ができたと言うと、たくさん本物があるのになぜこんなところにわざわざ偽物を作るのかと言われる。古代史のファンの人がそう言うということは、そうでない人にとってはもっと不要のものだろう。古墳という魅力をアピールするためにしたことが、一銭の金にもならない。結果として負の遺産を造ってしまったと言わざるを得ない。あとひとつ、桜井市という市の名前自体が、何の歴史ともつながらない。桜井市の一番の歴史は巻向であり、三輪。桜井駅という JR と近鉄の両方が停まる便利な駅がど真ん中にあるが、古代史ファンが来るのは、巻向と三輪なのだから、もう少し桜井駅とその 2 地区の一体感のあるプロモーションをしないとイケない。他から桜井市をみたときに、名前が桜井と言うことで巻向とも古代史ともつながらない。すごい物をもっているのに、バラバラの印象。素人だから言えるのかもしれないが、桜井市という名前も、将来的には変えていった方がいいのでは。

○菅原委員

- ・この地元のことは 40 数年住んでいてほとんどわからなかったが、自治会長になってから HP を作った。ある人に SNS で見てもらえる方がいいのでは言われ作ってみると、結構反響があり、奈良県の方からも問い合わせがあった。私たちも、旅行に行く時にまずネットで観光地等を探し、地方の人も桜井に来る時にまずネットで探すと思う。市の HP も全国の方が桜井市を検索した時に「行ってみたい！」と思える内容にしていきたい。ネットというのは旬が大事であり、常に更新していかないとイケない。林会長も来られているので観光協会と市も横のつながりをよくしていただいて、アルバイトの方でよいのでネットに長けた方を入れて、SNS や YouTube で発信する。梅田さんがおっしゃったように、古代史ファンの女性もいるので、山本さんが言ったような名物や土産物、煎餅や饅頭ではありきたりなので、キーホルダーであるとか、女性がこれ！というものを考えてもらって、あそこに行かないと手には入らない、そういった何かを作っていただきたい。市の埋蔵文化財センターでは、銅鏡づくりをやっておられたが結構おもしろい。こういう体験型や持ち帰れるものづくりなどがあると良い。また、福本さんがおっしゃるような、林業間伐の体験に興味のある方、農業に興味のある方が「一度参加してみようか。」となる。ちょうど駅前にホテルルートインができるので、宿泊

もできる。そういう形でインターネットをもっと活用すれば、どんどん広がっていく。

○土道委員

- ・大神神社や長谷寺はそこにあるもの。市が中心的に動けるのが巻向遺跡なのだが、掘ったり埋めたりで全く前に進んでいない。トイレができたことだけが成果。発掘の時には一般の人の家にまでトイレを借りに行った。もう少し巻向遺跡を、市が単独で動くのであれば早くしてほしい。この10年の間に空き家の問題が多くなるので空き家対策を入れてほしい。

○林委員

- ・菅原委員から、HPの話があったが、桜井市の観光協会のHPは、毎日更新しているので奈良県のHPでアクセス数はトップ。毎日職員が更新しており、興味を持って見てくれている。陰ながら、実績を上げさせてもらっている。みなさん期待してHPを見てほしい。

○福本委員

- ・観光にスポットが当たっているが、古代遺跡を観光スポット化するのは難しい。桜井市にお金が落ちない。別の物を作らない限りそこに留まってくれない。巻向遺跡に見学に行ってもお金を落とさない。神社仏閣があり、自然遺産があり、宿泊場所があり、物を買う場所があるから財政が潤うわけで、桜井市の山の辺の道をいくら整備しても、記紀万葉のまちを発信して来てもらっても、なかなかお金は落ちず経済的に潤うことはむずかしい。記紀万葉のまち、日本の発祥のまちということ、県外では知らない人が多い。10年たつて巻向が整備され、散歩には来てくれても、宿泊はしない。多様化した今は長谷寺の観光客も減った。売りを何にするかは難しいが、そこはうまく考えなければならない。

○梅田委員

- ・桜井駅周辺の空き家対策、宿泊施設整備を押し進めていく。一番大きなお金を落とすのは宿であり、食事やお土産。商店街を含め、宿泊施設をつくり、食事は外へ食べに行ってもらおうためのプロジェクトで一番大きなお金を落としてもらおうことを考えないといけない。

3. その他

○事務局

- ・次回の審議会は10月中の開催を予定している。

以上